



特定非営利活動法人

おもしろ科学たんけん工房

2011年4月1日発行

たんけん通信 第35号

東日本大震災ならびに福島原発事故により被災された皆様はもとより、このために避難を余儀なくされている方々、ご親族・関係者の皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

2011年3月11日に発生した東北・関東大地震は、史上最大の規模でした。状況が明らかになるにつれ、想像を絶する悲惨な光景が報道され、暗澹たる思いの毎日です。

さらに加えて、原子力発電所の被災による、放射能汚染は、関東地方南部にまで広がるのではないかと戦々恐々の毎日です。

おもしろ科学体験塾に参加されている児童のご家庭におかれても、親族やご関係の方の中に、被災したり、避難中の方々も沢山居られるのではないかと推察します。一刻も早く、復旧・復興を心からお祈り申し上げます。

おもしろ科学たんけん工房としては、この事態に対して、団体として、直接の支援の活動(たとえば募金活動など)はしませんが、会員個々の状況と判断に応じて、各人ができる支援活動を、すこしでも行なうよう呼びかけます。

**おもしろ科学体験塾の予定通りの開催に、私たちは努力します**

また、電力供給不足に伴う「停電」が実施されており、交通機関の混乱や、ガソリン始め、様々な物資の不足も、起こっております。これらの影響により、市民の生活にも、私どもの活動にも大きな影響が出ております。このような中で、困難は伴いますが、おもしろ科学たんけん工房の大切な事業である「おもしろ科学体験塾」の開催については、できる限り実施する方向で努力し・準備を進めます。 かしながら

**止むを得ず中止させていただく場合があります。どうぞ、ご了承ください**

中止するのは以下のような場合です。

- ① 科学塾開催のため予定した、会場(学校や公共施設)が、閉鎖・閉館する旨通知があったとき。または会場の使用自粛の要請があったとき。
- ② 参加児童に大きな危険があると予測され、おもしろ科学たんけん工房が、自ら実施を中止すべきと判断したとき。

- ② 実施に必要なおもしろ科学たんけん工房のスタッフの半数以上が、交通事情などで、参加できなくなったとき。
- ③ 実験・工作にどうしても必要な部品材料が調達できなくなったとき。

なお、個々の体験塾について、中止するかどうかの情報は、それぞれの、場所において状況が異なりますので、会場担当からご連絡申し上げます。

万一ご連絡が漏れた場合は、お手数ですが、お手元の募集案内チラシや、おもしろ科学たんけん工房のホームページに記された、応募申し込み先にお問合わせください。

**5月～6月の科学塾開催予定**

5/14	鶴沼中学校	七色の炎
5/14	杉田小学校	コマ
5/14	都筑地区センター	ヘリコプター
5/21	永野小学校	音の科学
5/21	柏陽高校	風力車B
5/21	アートフォーラム	すもうロボット
5/28	湘南台高校	七色の炎
5/28	戸塚地区センター	万華鏡B
5/28	科学館※	風力車B
5/28	瀬谷小学校	ぶるぶる虫
6/11	汐見台小学校	インドアプレーン
6/11	鶴沼中学校	ジェットコースター
6/11	フォーラム南太田	にじ色の涙
6/11	榎が丘小学校	ヘリコプター
6/18	永野小学校	信号機
6/18	柏陽高校	テクテクザウルス
6/18	あざみ野第一小学校	光/マルチボ
6/18	三保小学校	にじ色の涙
6/25	湘南台高校	水をきれいに
6/25	フォーラム(戸塚)	にじ色の涙
6/25	科学館※	気体の力B
6/25	白幡小	太陽熱風車

※科学館については未確定

## おもしろ科学たんけん工房 藤沢地区グループ便り No12

トピックス1：1月22日、長後小学校5年PTAの依頼を受け「ふれあい教室」を開催

150人の5年生全員に体験して貰える様、体育館内に5箇所のイベントコーナーを設け、透明パイプの中に入っているプラスチックの粒が音に合わせて踊る様子を観察したり、太鼓の音が手に持った風船に伝わりビリビリ感じる「見よう さわろう 音の世界」、低い所にあるペットボトルの水が高いところにあるボトルの中で噴き上がる不思議な「ヘロンの噴水」、レールを転がり落ちるボールが何回も宙返りをする「ジェットコースター」、紙コップと磁石で作成実際に音楽が聴ける「紙コップヘッドフォン」、コップに溜めた静電気で回る「静電気モーター」の実験をしました。中でも輪になった大勢の人達が、コップに溜めた静電気をビリッと一斉に感じてとてもびっくりする実験は大人気で(写真1)、二度もアンコールされました。子ども達の感想は、「理科がにが手なんだけど、じっけんがたのしくて、理科がたのしみになりました」、「ヘッドフォンを家でつくってみたくておかあさんがパソコンで作りをさがしてくれました」、「自分がやってみるとテレビで見ているより体験感がわきました」、「音で玉がうごくのがふしぎでかわいかったです」、「家でできそうなのはやって見ます」、「静電気の実験はワクワクした」、「紙コップで音楽が聞けるのが不思議でした」、「水が上に行くのがすごいと思った」、「ジェットコースターはビー玉がどうしてこう動くのかふしぎでした」などなど、「理科は実験して見ると面白い」事がかなり解ってくれた様でした。



トピックス2：工具研修会で正しい工具の使い方を勉強(写真2)

たんけん塾では初めて工具を使う子ども達や、また経験があっても正しく使えない子ども達も多く、その場で工房会員が手ほどきをしています。今迄はそれぞれ思い思いの方法で教えていました。しかしそれでは具合が悪いので、「正しい工具の使い方、まだ慣れてなく力も弱い子ども達にとって適切な工具の使い方」を統一した方法で指導するための研修会を2月24日に六会公民館で実施しました。

その他：藤沢地区初めてのゴム動力で飛ぶ「インドアプレーン」を湘南台で(写真3)、「中学生のための飛行機教室」を六会中学校で、その他5件のたんけん塾を湘南台、鶴沼及び横浜市の永野小学校会場で実施しました。



取材と記事制作：  
藤沢地区グループ：郷

# 横浜東地区グループ便り



## 2009 年度を振り返って

2006年6月にたんけん工房が各地区別に活動を始めて4年近く経ちました。この間にグループの会員も増え、現在44名(女性14名、男性30名)になり、多くの方が役割を担って運営に携わっていただいています。

また、私たちの活動も地域のご支援をいただきながら少しずつ根をおろしてきています。

皆様のご協力に感謝申し上げますとともに、状況や今後のあり方について触れてみたいと思います。

### 1. 運営体制について

私たちの活動には体験塾の関係だけでも、主任、副主任、アシスタントなど目に見えるところだけではなく、募集チラシ作成・配布、ホームページ作成、塾会場との折衝、リハーサル会場の確保、応募の受付と連絡、当日の会場準備と受け付けなどのいろいろな仕事があります。また全体的な仕事としても、会員間の連絡・調整、会計、各種行事のとりまとめなどなど、多岐にわたる仕事があります。これらの仕事が全てボランティア活動として、各自がチームワークをとりながら自主的に進んで行く様は発足当時に比べて、格段に進歩していると思います。

一方、仕事についてはまだまだ分担していただける分野が多々あります。また現在担当していただいている仕事も一人が長く続けるのではなく、出来るだけローテーションを掛け、多くの方が多くのことを少しずつでも経験していくことが、会としての活動を長続きさせるために大変重要なことと思います。

ぜひ、より一層の積極的な参加をお願いいたします。



2010.3.8 横浜東 G 定例会にて

### 2. 開催地域

南区での活動が盛んになってきました。金沢区にも広がって行けると良いと思います。各地区での活動は一人でも積極的にまとめてくださる人がいれば、輪はどんどん広がります。逆にその地区の人が動かなければ何も起こりません、一步を踏み出してみましょう。ボランティア活動というよりも、きっと自分自身のエネルギーの元になると思います。

### 2009 年度地区別活動回数 (1 日を 1 回として)

地区	会員数 (人)	体験塾 (回)	出前塾 (回)	学校協 力(回)	イベン ト(回)
栄区	9 (含む戸塚区)	11		3	1
南区	7		2		4
磯子区	8	22		6	
港南区	6				
金沢区	10		1		
横須賀	4		4		

(学校協力に はまっ子、キッズクラブ協力を含む)

### 3. テーマと主任

2009年までの体験塾または出前塾で1回以上の主任経験者は16名を数えるまでになりました。特に昨年は『藍の生葉染め』(山本浩さん)、『たまごの科学』(遠山勝美さん)、の2件の新テーマと新主任が誕生しました。どちらかという和工作主体のテーマが多い中、実験を主体にしたテーマが加わったことは大変貴重だと思います。

新テーマにこだわる必要はありません、従来のやり方にこだわる必要もありません。ぜひ多くの方が主任に挑戦していただきたいと思います。  
(土屋昌信記)



### 「私の秘めた思い」

今井 裕子



たんけん工房のスタッフ養成講座に参加したのは、今から5、6年前だと思います。

子どもが大きくなったとき、「うちのママすごい・・・」と思わせたいなあ～なんてそんな思いを秘めながら・・・現在、息子は小学校4年生。今年は科学塾に参加させていただいています。

ふとしたときに、学校の理科の話がよく分かった、この間科学塾で聞いたことと同じだったから、と言ってくることがあります。経験として身に付いているのでしょう。

さて、私は1年前から自宅で学研教室をやっています。週2回夕方になると小学生が20人ほどやって来ます。

「めんどくさい・わからない」をすぐ口にする子どもたちのお尻をたたきながら・・・「問題を声に出して読みなさい！もう一度自分で読んでごらん！」を繰り返すと、子どもたちは読んで考えるを体験します。

すると「あれ??なんだかわかってきた」この瞬間が本当に嬉しいものです。

いろいろな経験が不足している子どもたちに、多くを発信できる大人でありたい・・・私の秘めた思いはどんどん大きくなっています。







# 横浜北地区グループ便り



## 都筑小学校実験クラブ支援

都筑小学校実験クラブの生徒さん 25 名

(6 班)と一緒に 12 回にわたって実験を楽しみました。

まず、6 月に 3 連続で、テクテクザウルス(熊谷)、ヘロンの噴水(山口)、スチレンヒコーキ(古村)を実施しました。工作、実験、班ごとの考察のまとめと全体発表に与えられた時間は 70 分です。最初は時間内におさまるのかと心配しました。ところが、第一回目テクテクザウルスの工作の後では、どの班も考えた事、感じた事や疑問を画用紙いっぱい描いて発表してくれ、子どもたちの観察眼の確かさに感動、好奇心いっぱいの瞳に見つめられ、次回が楽しみになりました。

10 月からは、班それぞれに生徒たちが実験テーマを選定し、工房メンバーは予備実験を通して計画準備し、班を支援する形式での活動が始まりました。メンバーは図書の説明だけでは難しい見本の提供、あるいはアドバイスしました。子どもたちの多くが、「班全員で協力して実験できた事が一番よかった」と言っていました。見守る事こそが、第一の支援であると実感しました。(沼田くに子)



説明を熱心にきく子どもたち

## 電気のふしぎ3連続講座



「モーター」ちゃんと、まわるかな？

東山田中学校コミュニティハウスとの共催で、科学塾を“サイエンスクラブ”として、昨年 11 月から 12 月にかけて 3 回連続して行いました。

このコミュニティハウス竹原館長の「街で会ったら“やあー”と声をかけられる仲間作り」を目標に、たんけん工房にとっては、初めての試みである「同じ参加者に対する 3 回連続科学塾」でした。

工房には連続した形で企画したテーマがないために、通常行っている「信号機」、「IC ラジオ」、「モーター」を取り上げ、それぞれ、〈回路と光〉、〈電波と音〉、〈電磁石と力〉をサブタイトルに電気系統サイエンスクラブ連続講座として実施しました。

工房には連続した形で企画したテーマがないために、通常行っている「信号機」、「IC ラジオ」、「モーター」を取り上げ、それぞれ、〈回路と光〉、〈電波と音〉、〈電磁石と力〉をサブタイトルに電気系統サイエンスクラブ連続講座として実施しました。

懸念していた応募者数は、コミュニティハウスと地域との結びつきによって定員をはるか超えました。インフルエンザの流行で毎回 1、2 名の欠席はあったものの、32 名が 8 班に分かれて楽しく実験や工作をしました。

最後の日に、皆で 3 回を振り返ってみましたが、「最初の日は、上手くでき

るか心配でした。でも 2 回目から、来るのが楽しみになってきて、今日はサイエンスクラブが待ち遠しかったです。」(小4 女子)など、嬉しいコメントがたくさん寄せられました。(古村哲夫)

## ワクワクドキドキしてみよう♪

青葉区の小学校で、「はまっ子」という放課後支援事業を仕事にしています。

1 年生が「学校で一番好きな時間は給食とはまっ子！」というほど人気の

「放課後の遊び場」ですが、「はまっ子」は学校とは異なる子どもたちの放課後遊びと生活のサポーターです。

「放課後は同級生と空き地や校庭で日が暮れるまで遊んだ」のは昔、平成の子どもの一日は分刻み、放課後も貴重な一コマです。そして、彼らはとても遊びベタ、しばらく遊ぶと「つかれた〜」「つまんない・・・」といいはじめます。そこで、アンケート調査してみました。好きな遊びは「PC ゲーム」「Will」、場所は「東京〇〇ランド」・・・あれ？それは「遊び」でなく「娯楽」です。なんだか違います。困りました。

そこで、「遊ぶ」=自発的に楽しむ練習を子どもたちとやっています。子ども時代は人生のルーツです。大人になってから(なっている人も将来)「つまんない」ことにならないために、ワクワクドキドキ、いつも頭と心を鍛えましょう。(渡辺智子)



たんけん工房スタッフのプロフィール : 5面~8面に掲載しています。 設問は6面をご覧ください。

A1: 千葉県の外房で毎日海を見て育ちました。

でもあまり泳ぎは得意ではありません。若い時は中野区に住んで光学機器メーカーに勤めたこともあります。事務職で科学には縁がありませんでした。

その後伊勢原市に移り住み、今の栄区で25年になります。

A2: 子どもが小さい時は一緒になって虫取りやザリガニ捕り、市民の森の散策など楽しみました。

はまっこふれあいスクールのスタッフのときは子どもたちとペットボトルロケットをつくりみんなで飛ばしていました。あの生き生きとした子供たちにまた会いたくて応募しました。



**加藤笑美子 さん**  
(横浜東 Gp)

A3: 最近話題の映画「沈まぬ太陽」山崎豊子さんの本を読みました。あの大作をどのように映画に撮ったのだろうかと思えます。残念ながらまだ映画は観ていません。

A4: 最近パッチワークを始めました。小さな布を縫い合わせて作品に仕上げる楽しみがあります。また布を細く裂いて織る裂織りや草木染め・押し花もやります。お花が好きでいろいろ育てていて、今はクリスマスローズがきれいです。

生涯学習のサークルでは4月は塚山公園でお花見、5月は谷中界隈を歩く予定です。昨年5月にはANA 機体工場の見学に行きエンジンの大きさに驚きました。

A6: 科学が不得手の私が、リハーサルで難しかったり間違えたりしたことを塾の本番で子どもたちに活かせるかなと思っています。

**北川 正博 さん**  
(横浜北 Gp)



A1: 東京のと真ん中で生まれましたが、父の転勤で、長崎、東京、広島、長崎、東京と引越し・転校しました。広島の中学では動員先で原爆直下にいた友達の大部分が亡くなりました。大学では化学をやったことになっているのですが、化学とはあまり関係のない鉄鋼会社でプラント関係の仕事をしました。転勤で神戸に23年間も暮らし、平成5年からは田園都市線あざみ野駅近くの団地に住んでいます。

A2: 物の無い時代に育ちましたので、玩具を自分で作って遊び、研究所でも実験装置を自分で工作して組み立てていましたし、自分の手で確かめて見たい性分です。今の子供は自分の手で実際に自然現象を体験しその不思議さ、面白さに感動する前に、知識として教え込まれて理科離れとなっているとの問題意識を持っています。ネットでもおもしろ科学工房を見つけました。

A3: 子供と一緒に遊んで自然現象の不思議さに感動する経験をさせてあげたい。団地内の行事の一環で子供達とペットボトルを使って空気の重さを量かったり、静電気や独楽で遊んだりしたことがありますが、皆さんに色々教えて戴いて一緒に出来ればと思います。

A4: 団地内に定年を迎えた同年代の人達で老人会を創りましたが、18もの部会があって、文系、理系の色々な分野の異業種の人達が集まって忙しく遊んでいます。また、近くの地主さんから40坪程の畑を借りて良い運動と空気、無農薬新鮮野菜で楽しんでいます。

A5: 子供達に自分自身で自然に触れ、体験して感動する体験をさせてあげたいと思います。



2009年度第2期養成研修 終了時アンケートから;

Aさん 40歳代 女性

集合実習では、誰でも大人なら普通に使えて当然と思っている道具にも、より生きた使い方があり、意外に知らないでいたという現実を知り、恥ずかしい思いでした。そして、とても貴重な機会を作っていただいたことに感謝しております。また、子供と接する上で大切な、『安全への配慮、叱り方、ほめ方』は、頭では解っていてもなかなかできないものですが、活動する上での根本的な必須項目であると思いました。安全への配慮があるからこそ、活動内容が意味あるものになり、子供達に的確に接することができて、はじめて子供達は何かをかんじてくれるのでしょう

Bさん 60歳代 男性

研修をする中で、『教えることに対する心構えの大切さ』の教えが非常に印象に残りました。これは、私たちが社会の中で生活して行く上においても大切なことだと思いました。そのため、これからも引続き、『教えることとは何なのか』、『科学とは人間にとってどうゆう働きをするのか』等について問いつづけていきたいと思えます。(中略) この工房では、子供たちの科学嫌いを改善するために、会員の皆様が、科学の面白さ、不思議さ、工作の面白さ、工作の完成時の満足感・達成感等を体験させてあげたいと努力されている姿にも感動しました。





## 高橋真理子さん

(横浜東Gp)

A1:

生まれも育ちも千葉の田舎です。

印旛沼のほとりの田んぼに囲まれたところで、今も実家に帰るとかえるの大合唱です。中学校の時、実験好きの先生に出会い理科が好きになりました。

小学校教諭をめざしていましたが、結婚を期に家庭にはいりませんでした。社宅を転々としていましたが、4年前から金沢文庫に定住しています。

A2:

上の子が科学実験教室に通いはじめ、とても楽しそうで自分もやりたくなってしまいました。

ちょうど下の子が幼稚園に通いだし、自分の時間がもてるようになったので参加をきめました。たんけん工房の活動時間は子供がいる時間が多いのでおもうように参加できません。

A3:

理科室だけの科学ではなく、生活の中にあるということを実感してほしいとおもいます。身近な材料を使い、家に帰ってからも子供たちが自分で実験したり改良したりできたら、より身近に感じられるのではないのでしょうか。

A4:

陶芸を習っています。  
いびつな器も味わいがあって愛着がわきます  
冬は家族でスキーです。

小4の息子に、「同じレベルか僕の方が上かな」と言われ、かなりショックです。

A5:

慣れてくると、頭でっかちの知識で「そんなのとーぜんだよ！」と話さず聞かない子がいますが、いつまでも不思議だな・なぜだろう?という気持ちを持ち続けてほしいとおもいます。

研修終了時アンケートから:(続き)

Cさん 30歳代 女性



科学塾は単発講座なので、もう少し子どもたちとのキャッチボールが出来るような、シリーズ化やサークルなどを考えても良いと思っておりましたが、既に団体としてその方向も模索されているとのこと、機が熟してその段階に進めれば良いですね。特に夏休みなどは宿題の自由研究としてシリーズ化し、

①夏休みの始めの講座

②夏休み中は各自で観察、考察、見学に行くなど

③夏休みの終りにまとめの講座

といったカタチにすると、宿題をただやるだけよりも有意義になるかもしれないと思います。

- Q1 生まれた場所と、現在お住まいの場所、簡単な略歴。  
Q2 たんけん工房に参加するようになったいきさつと、動機。  
Q3 たんけん工房でやってみたいことはどんなことですか  
具体的なテーマでも、夢のイメージでも。  
Q4 趣味や道楽は?  
Q5 子どもたちに ぜひすすめたいことはなんですか?  
Q6 その他付け加えたいことがあれば、ご自由にひとこと。



## 野地実穂さん

(横浜北 Gp)

A1: 生まれは東京都立川市、その後、3歳から高校卒業まで横浜にいたあと、大学から18年間を札幌で過ごしました。高校時代から理系畑を歩み、札幌では、工業系の大学で教鞭をとっていました。結婚と同時に退職し、現在は、主人の転勤で横浜にて暮らしています。古巣に戻ってきた感じです。

A2:

横浜にきてから、出産&育児に追われ、友人や知人など、人のネットワークから離れてしまい、煮詰まっていた。せつなくなら、自分の関心のある理科・科学を通して、仲間や子ども達とのつながりができたらと思い、たんけん工房の門をたたきました。

A4:

今は子育てに追われなかなか行けないですが、山登りや旅が好きです。その他、昨年秋から2,3歳児対象の親子教室を立ち上げました。子どもと一緒にできる工作、自然観察、クッキング、などテーマは様々です。

A5:

痛くても、大変でも、辛くても、自分の手足を動かし、頭で考え、心で感じる事が大切です。その経験こそが、自分の血肉になります。そのためには、実体験しかありません!外に飛び出そう!!

A6

親子教室を始めてみて、子どもに理科の楽しさを伝えるのももちろん大切だけど、同時に、ママ達に理科科学に興味を持ってもらえると、家族の日常に科学の種がまかれるのではないかな、と考え始めています。

スタッフのプロフィール 次号予告:

会員登録順に掲載しています。次号は

藤井玲子さん、田中 敏彦さん 福谷 清さん、福谷 雅子さん、田島 秀夫さん、安藤祐二郎さん、坂本 欣也さん 江津 和義さん にお問い合わせの予定です。



第5面～8面には、スタッフのプロフィールを紹介しております。(今号は7名を掲載しました。)



**島田 祥生(さちお)さん**

**(横浜東 Gp)**

A1: 函館生まれで、夏は昆虫少年、虫がいなくなると工作少年でした。電機会社の、商品設計のメカ屋・生産技術屋・人事屋を経験して、定年間近に厚木市にある短期大学へ。

保育園(あゆのこ保育園)開設の仕事の後、学長の特命業務をいくつかこなし、昨年3月に「卒業」しました。

南区北永田に30年ちょっと住んでいます。

A2: 短期大学の前学長の山田さん(会員です)に勧められたのと、一昨年短大35周年のイベントで安田さんにお会いしたことです。

もともと子どもが大好きですが、厚木市の小学校でおもしろ理科実験教室の講師をして、キラキラする子どもの目を見てはまりました。是非子ども達との交流を続けて行きたかったから。

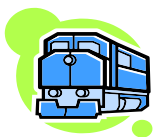
A3: 1. 子ども達が、目を輝かせて「うお〜〜」と叫ぶ。

2. 自分からなぜだろうと考え始める。

3. 図書館に調べに行きたくなる。

4. 5年10年後に、思い出してくれる。

そんなテーマを作りたいですね。



A4: 趣味: 昆虫採集、模型工作、鉄道、写真、旅行、鉱物採集、そして今木工。

他の活動: 前任短大の学園祭製作部門(ゲートなど飾りつけ)のアドバイザー、厚木市のあゆのこ保育園へのよろずお助けマン、など。

A5: 1. とにかく、ものをいじくり回すこと。

2. 道端のタンポポや雑草などを、じっくり見ること。

3. 本を読むこと。

そうしたら、テレビゲームをやらなくなるでしょう。

A6: 子ども達が、自然(科学)に接する機会がものすごく減っています。

とにかく、頭で考えるより、理屈抜きに体で感じる、そんな経験を増やしてあげたいですね。

ボランティアスタッフの養成研修を終了した方々から、研修を終えて、どんな印象をお持ちでしょうか?と感想やご意見を伺いました。その中の一部を、5ページから7ページにわたって、掲載しています。

**三上 文子さん**

**(横浜東 Gp)**



A1: 横浜生まれの横浜育ち。磯子区の公立中高卒業後、生物化学系の大学卒業。化学工業系会社にて検査業務を経て、現在まだ手のかかる2児の母をしています。

A2: 図書館で見つけたチラシを見て、子どもにも体験させたいと思い、見学させていただきました。

思いのほか、深く考えられた内容で感心。

勉強させていただき、子どもたちにも広めて行きたいと思いました。

A3: 非日常的な「わ〜!」っと思ったり、「なんで〜?」と疑問を感じる体験をさせてみたい。抽象的ですが・・・。

疑問を解決したときの子どもの笑顔は、パワーをくれますから。

A4: 子どもの通う小学校で、読み聞かせのボランティアをしています。

A5: 野遊び。カタバミやオオバコで引っ張り相撲をしたり、カラスノエンドウで草笛を作ったり、花で色水を作ったり、オシロイバナの種をむいておしろいごっこしたり・竜のひげの実を弾ませたり・・・。桑の実やグミを採ったり・・・。

今の環境ではむずかしいですかね〜。

注意深く見ることをしてほしい。

A6: のんびりと息の長い活動が出来ればと思います。



(研修終了時アンケートから・・・続き)

**D さん 40歳代 女性**



おもしろたんけん工房の活動内容が充実している事と、代表の安田さんをはじめ、関わっているみなさんがパワーがあり、とにかくすごいと感心しました。

今後については嬉しさ半分、続けられるのかという不安半分です。研修は、用具の使い方を丁寧にもの作りをしながら教えていただいたり、先生のお話をきけたり、科学館のショーを見れたり、理科教育について考えることのできるDVDの視聴ができて、毎回大変勉強になり、楽しくて有意義な時間でした。

私自身も色々学びたくなり、こども向けの科学の本など見たりしました。参考図書などを教えていただくと助かります。

こども達にもテーマに関する本など紹介できると、さらに問題意識も深められていいと思います。

(プロフィール 続き)



## 江端 正樹 さん

### 横浜東 Gp

A1: 1943年樺太(現在はロシア領)の真岡市に生まれ、終戦とともに本土に引き上げてきました。一時期香川県の戸内海のとある島に居住しましたが、その後小学校入学から大学卒業まで北海道の小樽市に住み、卒業後大手電機会社に職を得て横浜に移り住み、20年ほど前からは現在の横須賀市に住んでいます。

A2: 長年勤めた仕事を離れて、何か自分にもできることはないのかなと考えていたところ、旧職場の先輩から「おもしろ科学たんけん工房」という組織があるということを紹介されました。理科や算数(数学)が苦手だという子供たちが多いということを知っていましたが、子供の頃から理系が大好き(得意であったかどうかは別として)であった自分のことを省みて、子供たちに理科や算数に親しんでもらうために何か役に立てることがあるのではないかなと感じて入会しようと思った次第です。

A3: 理工工作は好きなのですが、必ずしも手先が器用という訳でもないの、子ども達と一緒に楽しめればと思っています。また、年齢とともに脳みそのサビつきがひどくなってきていますが、少しでも衰えた脳の活性化につながればいいなと思っています。

A4: 推理小説などの軟らかい本を読むこと。カメラ片手に街の中を歩き回るタウンウォーキング。パソコンいじり。特に、ウォーキングは1週間に5万歩(35km程度)以上は歩こうと努力しています。ちなみに、昨年は1年間で2400kmくらい歩きました。メタボ退治に少しは役に立っているかもしれません。

A5: 求めれば何でも向こうからやってくる便利な文明社会に住む今の子ども達に、いまやどんどん遠のいていってしまうような「おじいちゃんの智慧、おばあちゃんの智慧」といった古いものの良さにも興味を持ってもらえるとうれしいと思います。また、1か0かといったデジタル的思考もそれはそれでいいけれど柔軟で多様性を持ったアナログ的思考も大事にしてほしいななどと思っています。

## 2009年度科学塾 最終3ヶ月の実績

日付	テーマ	参加	応募
1/9	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る	17	17
1/9	たまごを科学しよう	22	23
1/16	転がれ、進め、ジェットコースター	20	23
1/16	コマを作って回し比べをしよう	10	16
1/16	ソーラーカーを作ってみよう	27	52
1/16	竹とんぼを作ってナイフの正しい使い方を学ぶ	10	12
1/23	ソーラーカーを作ってみよう	27	34
1/23	てんびんばかり	10	12
1/23	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る	14	19
2/6	ICラジオを作ってみよう	32	34
2/6	水をきれいにする実験	21	25
2/13	音をたんけんしよう	5	10
2/13	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る	20	24
2/13	インドアプレーンを作って飛ばそう	21	23
2/20	ロケットと発射台を作って、ロケットを飛ばそう	23	26
2/20	静電気のふしぎを実験/静電気モーターを作る	20	30
2/20	作ろう! ふしぎなテクテクザウルス	13	14
2/27	インドアプレーンを作って飛ばそう	27	29
2/27	UFOみたいなホバークラフトを作ろう	22	38
3/6	紙で作れるブーメラン	21	23
3/6	みんなで調べよう 食べ物の色のひみつ	26	35
3/6	空気の重さと圧力のふしぎを実験	21	22
3/13	ブザーを作ってモールス通信に挑戦	27	29
3/13	ソーラーカーを作ってみよう	22	24
3/13	太陽熱で回る風車を作ろう	18	24
3/20	すもうロボットをつくろう	28	30
3/20	ICラジオを作ってみよう	23	31
3/27	てんびんばかりを作って重さをはかろう		
3/27	レモンや食塩水で電池を作ろう		



09年度科学体験活動推進スタッフ養成研修が終了しました。1期～2期の参加者数は右のとおりでした。

	1期	2期	合計
応募申込者数	18	18	36
実習が1期・2期参加者数	16	11	27
現場実習・自由実習参加者数	15	11	26
研修の完了者数	12	11	23